

湛水土中（カルパー）直播栽培特報 第2号

平成 28 年 5 月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

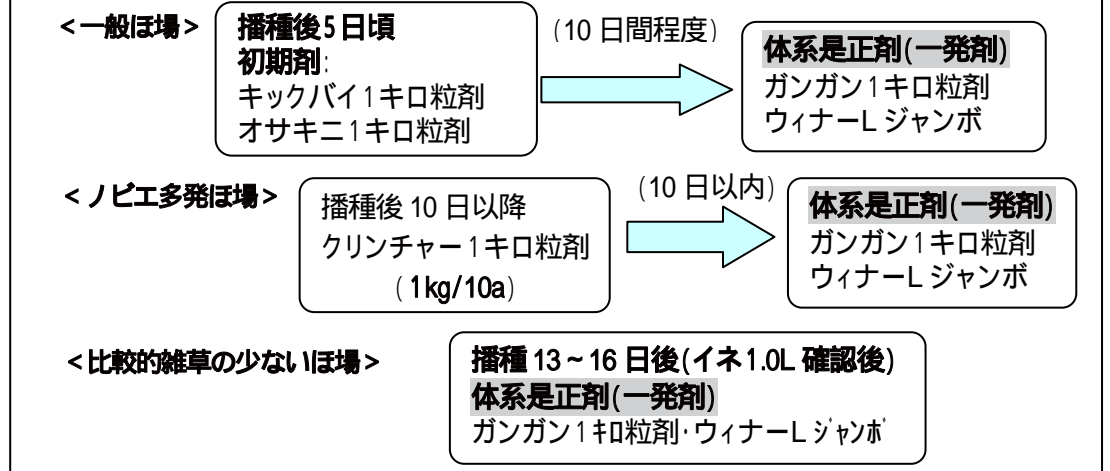
苗立後は、浅水管理を徹底し、初期生育の促進に努めましょう。
5月下旬頃から、茎数は急激に増加します。

溝掘りは早めの実施し、中干しは適期に開始しましょう。

雑草防除

ほ場状況に応じて、体系を選んでください（右図参照）。
除草剤散布時は、やや深めに水を張って散布し、散布後7日間は落水やかけ流しを行わないようにしましょう。

ほ場状況別除草体系



雑草が残った場合は、下表を参考にしながら、草種に応じて除草剤を施用しましょう。

雑草の種類	使用除草剤	10aあたり使用量	使用時期	使用上の注意
ノビエのみ	クリンチャー 1キログラム剤	1.5 kg	播種後 25日～ノビエ 4葉期 (但し収穫 30日前まで)	湛水状態で散布し、散布後 5日間は湛水状態を保つ。
	クリンチャー EW	薬量: 100m 希釈水量: 25～100	播種後 10日～ノビエ 5葉期 (但し収穫 30日前まで)	雑草茎葉部に十分に薬剤が付着するように散布する(落水～浅水状態で散布)、展着剤を加用する。
ノビエと広葉雑草	カービー 1キログラム剤	1 kg	イネ 4葉期～ノビエ 3葉期 (但し収穫 90日前まで)	湛水状態で散布し、散布後 5日間は湛水状態を保つ。低温(15以下)が予想される場合の使用は避ける。
	クリンチャーバス ME 液剤	薬量: 1,000m 希釈水量: 70～100	播種後 10日～ノビエ 5葉期まで (但し収穫 50日前まで)	落水状態で散布し、その後 3～4日間は入水・落水をしない。展着剤不要。

水管理

苗立後～6月上旬 【浅水管理】

朝夕かん水・日中止め水で水深 3 cm 前後の浅水管理で生育を促進し、早期に分げつを確保しましょう。
表層剥離や転び苗が目立つ場合や 2 回目の除草剤を散布する前に 2 日程度の田干しを行い、田面を落ち着かせましょう。

6月上旬 【溝掘り】

溝掘りは 6 月上旬までに必ず実施しましょう。
溝は 10～15 条に 1 本の割合で掘り、水尻としっかり連結しましょう。

6月中旬 【中干し開始時期】

1 m 間の茎数が 100 本程度になったら遅れずに、中干しを開始しましょう。
土の表面に小さな亀裂が入り、田面が硬くなるまで田を干し、出穂後 20 日間の湛水管理に備えましょう。



写真 中干し開始時期の生育量

いもち病の予防

葉いもち病の発生を防止するため、予防剤を散布しましょう。

散布時期	薬剤名	10a あたり使用量	備考
6月10～15日	オリゼメート 1 剤	1 kg	散布後 4～5 日程度は「湛水状態」を保ち、7 日間は落水や掛け流しをしない